

10月19日（水）本年度第15回（通算 第2844回）

「就職指導講演会」移動例会

担当/職業奉仕委員会 12時30分～釧路商業高校

◆お客様と来訪ロータリアン

釧路商業高校 校長 小笠原 茂美 様

滋慶学園 センター長 山本 聡 様

◆メーカーキャップ

◆出席報告【会員総数 76名 免除 6名 出席計算に用いた会員数 76名】

本日の出席率 出席者名 32名 メーカーキャップ 0名 出席率 42.1%

前々回の修正出席率 出席者名 44名 メーカーキャップ 1名 出席率 59.2%

◆ニコニコ献金（今年度累計 391,000円）

・小笠原校長、山本センター長、今日はお世話になります。今日のミュージカル楽しみにしています。

皆様よろしくお祈いします。 ～富樫 孝之君

・中島谷委員長よろしくお祈いします。 ～平井 昌弘君

・四つのテスト、ソングリーダー受け付けております。 ～鈴木 圭介君

・本日担当です。よろしくお祈いします。 ～中島谷 友一朗君

◆会長挨拶《富樫会長》



皆さんこんにちは本日は移動例会にも関わらずご参加ありがとうございます。

そして本日は小笠原校長先生、滋慶学園の山本センター長様、今日は大変お世話になります。どうぞ宜しくお

願ひ致します。

この商業高校での就職指導説明会、今年で12回目となります。私どものクラブの継続活動の一つであり、職業奉仕、青少年奉仕と重要な位置付けでございます。昨年の佐渡年度で取り入れた進路ミュージカル。正直、私自身ミュージカルといものを初めて生で観た人間であり、目の前で凄い迫力で鳥肌が立つ思いで観ておりました。生徒の心に深く印象に残り、何らかの問いかけはあったのではと確信致しておりました。実はもうその時点で来年も進路ミュージカルをやろうと決めておまして、中島谷委員長に準備を進めてもらっていた次第であります。中島谷委員長には大変感謝を申し上げます。

今年もこの進路ミュージカルで一人でも多くの生徒が自発的に自分の将来について考え、何か一つでも持ち帰ってもらえたら大変うれしく思います。

そんな願ひと期待を込めまして簡単ですが本日の挨拶といたします。

◆幹事報告



口頭

- ① 地区大会ご参加の皆様方に当日のスケジュールをFAXにてご案内をしております。

◆プログラム《就職指導講演会》

例会の様子



中島谷職業奉仕委員長より



皆さんこんにちは。今年度、職業奉仕委員長の中島谷でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。小笠原校長先生本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。そして、山本センター長昨年に引き続き一年間打ち合わせを重ねた中でやっと今日を無事迎えることが出来ました。よろしくお願い申し上げます。今日の例会の流れでございますが、この後に小笠原校長先生の方から学校の進路の状況など説明を頂いたのちに、山本センター長様の方から就職進路ミュージカルの説明と滋慶学園の説明と、お二人から学校の説明を頂いたのちに体育館に移動して13:40頃からミュージカルの上演になります。終了時間が15:00には完全撤収となりますので長丁場にはなりますがどうぞよろしくお願い致します。今回のミュージカルのテーマは先週の例会でもお伝えしましたが、夢や目標を諦めずに頑張ることが大事、又、仕事は好きなことも嫌なことも選べない、それが仕事だというような、又、親が子を思う気持ち、子供はそれに気づいていないなど、生徒さんに対しても就職という面で今後の一つのキーワード・ヒントになるのかなという様なミュージカルになっておりますが、私たち子供を持つ親にとっても子供とは何なんだろう・親とは何なんだろうというヒントになるのかなと、なっておりますので、是非とも15:00までの長丁場になりますけれども体育館のほうにお越し頂いてミュージカルを鑑賞して頂きます様、今日一日よろしくお願い申し上げます。

小笠原校長先生より



改めまして、こんにちは。ただいまご紹介頂きました釧路商業高校校長の小笠原と申します。この度釧路北ロータリークラブの皆様におかれましては長年にわたりまして本校の敬愛教育のご支援頂いております事を改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。私事になるのですが、実を言いますと平成18年から22年まで釧路商

業高校で教頭として勤務しております、実はその際校長が一年だけだったので出張で不在だと言う事で一度この席にお邪魔させて頂いた事がありまして今回二回目と言う事で非常に懐かしくセレモニー等も拝見させて頂いたところでした。縁あって戻ってきましてまたこうやって北ロータリークラブさんの方にご指導いただくと言う事で今日は是非よろしくお願い致します。若干のお時間を頂きまして学校の概要等々につきましてお話をさせていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。本校は少子化の影響を受けましてこの数年で学級の数が減ってきております。その中で今現在は三年生が5学級、一年生と二年生が4学級と言う事で、昔は10数学級もあつたりだとか定時制もあつたりだとか、そういう時代もあつたのですが今現在はそういった状況で、来年の一年生を迎える段階ですべての学年が4学級という事になります。非常に少子化ということでうちの学校だけの問題ではないのですが生徒の数も減る、そのような中で段々活動の内容も過去のようにはいかない部分も実は出てきている状況にあります。そのような中で現在の生徒たちも半年経ちますが、様々な面で活躍しております。具体的に言いますと、各種大会におきましては、テニス、柔道、卓球、バレーそういう部活が全道大会に出場を決めております。さらに文科系でいきますと書道の生徒が全国大会に今年出場しております。あと、各種の文科系部活が全道大会に出場を決めていると言う事で、生徒数は少なくなっていますが、そういう中で生徒一人一人が頑張ってくれていると感じております。更に各種検定等につきましても3月くらいに新聞での報道もありましたけれども、本校の生徒始めて以来の一級取得や、たくさんの資格を取得して卒業した生徒も出てきております。生徒の中にはやはり商業高校と言うことで資格取得を目標に本校に入学している生徒もおります。あと就職関係なんですけど、この春の卒業生につきましては100パーセント就職を決めて卒業したと聞いております。そして間3年生186名いるんですけど、そのうち約6割が就職を希望しております。人数でいきますと102名の生徒が就職希望と言うことで、ちょうど一ヶ月ほど前9月16日から就職試験がスタートしまして昨日の時点で半分を超えまして53%の内定率と言うことで去年よりも順調に推移していると言うことで報告を受けております。これはあくまでも結果としてのことなんですけれどもできることであれば生徒が卒業前に進学か就職を進めて100パーセント進路を決定して卒業できるようにと言うことを我々進路指導部、学年の方で目標にして取り組んでくれていると言うところです。あと残りの生徒が進学と言うことになりましたが、進学もかなり昔とは様子が変わってきておまして、大学短大に進学する生徒が増えております。この春で言えば、本校初めてだったんですが、効率の函館未来大学に進学した生徒が出てきております。これは公立大学と言うことで、商業高校とは直接関係ないのではないかとイメージをもたれる方もいるのではないかと思いますので、実は情報処理の関係で本校で高い情報処理の資格を取って推薦でそちらの大学へ進んでおります。情報処理系でそういう推薦資格を見してくれる国公立の大学があるものですから、今年度も今現在これはどうなるかわかりませんが小樽商科大学を目指す生徒も3年生で出てきております。そういう点で進学の状況も以前は多くが専門学校だったので、進路が変わってきている傾向にあります。そういう点で就職進学問わず私も生徒の進路を自己実現と言うのが1番の目標ですので、それを目標達成のために今回もそうですけれども、多くの方のお力添えをいただきながら生徒の自己実現を目指していきたいと思っております。ちなみに本校の校訓と言うものがあります。『敬愛・自尊』と言う校訓です。周りの人を敬いながら自分自身を大切に、というような内容になるかと思います。その敬愛・自尊という校訓に添えられている言葉があります。学んで喜び、働いて喜び、与えて喜び得る人間となることを目標にして、1日1日の生活を感謝し自己の生命の充実とよりよき社会の建設のために日々邁進致しましょう、こういう文章が添えられております。ロータリーの考え方とも通じるところがあるのではないかと改めて考えながら先程のお話を聞いておりました。今後ともぜひ本校のご支援いただければと思っております。あと生徒の状況で本校の男子の数が非常に少なくなつて来ております。今現在全校生徒で、3年生では男子が25%、つまり女子が75%、そして1・2年生だけでみますと男子は20%しかいません。80%が女子と言うことで、そしてこれは本校の積古ですけれども、多くの生徒が就職を希望しております。今年度についても地元中心に就職が決定しております。今の国の政策の中に、女性活躍社会と言うそういう政策もあるように聞いております。本校の女子の多くが地元に残って、地元の経済界に何らかの形で関わっていくかと思っておりますので、その時のことも含めまして今後ともよろしくお願ひしたいと思います。以上雑駁ではございますが、私の方からのご挨拶と変えさせていただきます。よろしくお願ひ致します。

山本センター長様より



皆さんこんにちは。昨年度の事業に引き続きまして今年度も開催に向けてご尽力いただき、中島谷さんには細かいところまで非常にお世話になりました。1年前にもこの場を借りてご挨拶させていただきましたが、私ども滋慶学園グループと申しまして全国に70校ほど専門学校を保有しております。北海道にも7校ありまして、この資料に7つほど学校名を記載させていただいております。昨年度もお話しさせていただいたのですが専門学校と言う1つの高等教育機関であります、やや最近の流れとしまして文科省の方針もありまして、少し今後変わりつつあります。実は、教育基本法の第一条と言うのがあるのですが、その法律に乗っ取ると専門学校と言うのは教育機関からちょっと外れております。教育基本法の中の学校教育法というのがあります、その127条と言う中に実は専門学校と言うのが規定されておりまして、学校教育基本法の中の第一条の中に専門学校を入れて欲しいと言う事を、実は亡くなられた町村代議士が非常に力を入れていただき、全国の専門学校を大学と短大と同じ系列にしても良いんじゃないかと言う話をさせていただいたのですが、非常に難しいと言うところがありまして、これは明治時代からの法律でございましてなかなか難しいのですけれども、今少しずつ動きがありまして実は昨年専門学校の中に職業教育の1つの実験として職業実践過程と言う、1つ新しい科目ができました。これはですね、将来職業専門大学と言う所に移行する前の一つの布石の位置付けになりまして、私どもの学園もその職業実践過程に登録をしまして、かなり分厚い書類を役所に出すのですけれども、その中に1つあるのが1番は地元貢献されている皆さんの企業さんと私ども学校がもっと密接に連携して、地元の子供たちの育成をしようと言うのが1番の課題になっております。そして私どもの学園も、いろいろな分野を勉強しております。医療の分野それから調理、あるいは美容師とかそれから動物看護師とか、道東で今話題になっていましてけれども野生動物の保護についても力を入れて勉強しています。今日1つテーマで職業の就職指導と言う事業の中の、私どもの力を入れてる1つとしては放送芸術専門学校と札幌スクールオブミュージカルダンス、この2つがちょっと硬い分野とは違う種類の勉強なんですけれども、将来夢を持ってこの分野で勉強した上でプロになりたいと言う生徒のための実践教育をしております。ちょうど私どもの1つの過程としまして、こちらのパンフレットの中にもあるのですけれども、去年皆さんの前で演じた主役をやった定本楓馬と言う今年卒業した生徒ですが、大手の芸能プロのオスカープロモーションと言う事務所に所属しまして今年難関のオーディションを取りまして、今若い子に凄く人気のあるコミックから出たミュージカル、『テニスの王子様』と言う非常に有名なミュージカルがあります。そこのほぼ主役に決まりまして、今その青春学園と言う1つのドラマになってまして、そこの中の不二周助と言う役で次のデビューが決まりまして、異例のスピードで出世しています。もしまた皆さんのお子さんとか関係者でそういう興味がありましたらぜひ見ていただいて、既にホームページにも顔写真が出てます。その子が誰かと言うとこのパンフレットにも出てましてちょうど手をあげてる男の子です。見覚えがあるかもしれません。去年ミュージカルで主役をやった子ですね。彼が12月からのミュージカルの主役に抜擢されて今後活躍するという形です。それからこの真ん中の昨年卒業

した守谷駿、彼は鶴川高校出身なんですけども彼もですね今ドラマにちょこちょこ出ております。また顔見てテレビ等々で見る機会もあるかもしれません。こういった形で、2年間しかないわずかな勉強期間で芸能の世界に飛び立つと言う事は非常に難しい事かも知れませんが、私たちの学校自体は職業実践と言うことでプロになるための細かいところまで指導をしまして、今日公演させていただくミュージカルも1つの訓練の場として使わせていただいております。おかげさまで私どもの学校のミュージカルも昨年度、釧路商業高校さんをはじめ、全部で32校全道各地公演させていただきました。今年は今の予定で行きますと去年より11校増え、43校公演させて頂く予定になっております。昨年度見ていただいたのは『いつか青空の下で』と言うタイトルで、テーマがフリーターとかニートをそんな簡単に考えてはダメだよと言うことをテーマにしたドラマでありました。そして今回は先ほど中島谷さんの方からもご説明いただいたのですが、地元北海道を舞台にしております。北海町という架空の町の高校を出た仲良し4人組なんですけれども、その4人組が軽音楽部という部活動をやってまして、その4人がそれぞれまた卒業して大学、専門学校、地元の役場に就職、もう1名は今回ニート、フリーターではなく、将来僕はミュージシャンになって東京に行くということで、1人だけ自分の夢を持って東京に行きます。そしてその後数年経ってまた友達同士が今流行のSNSと言うもので近況を報告し合うドラマに設定しております、大学、専門学校に行った子もそれぞれ自分の目標の就職も決まり、役場で働いている子も仕事も充実してきたと、ところが、ミュージシャンを目標にしていた男の子が東京に行ってもなかなか芽が出ず、アルバイト漬けの毎日の中で地元で今回親子愛をドラマに入れているんですね。そしてお母さんと主人公の心の葛藤といいますか、親の気持ちと子供の気持ちをドラマに織り交ぜながらそこでちょっとジーンとくるシーンがあります。そして最終的には友達が仕事についていろいろ悩みがあるけれど、自分の目標を持ってやるのは良い事ではないかということでもまた同級生の背中を押してあげると言う筋書きでございます。前回とはまたちょっと違うように話なっていますが、今回シナリオも20回ほど手直しを全部やりまして、できるだけ今の高校生にわかっていただくようなセリフとか、ちょっとギャグなんかも入れております。ちょっと大人のみなさんにはやや通じない部分もあるかもしれませんが、今回はちょっとシリアスな設定になっておりますので、ぜひこれを見て将来の仕事について商業高校の前学年の生徒さんに今日見ていただきますので、仕事って言うのはつまらないことも楽しいことも全部仕事だということをおわかってほしいと言うことと、夢や目標をやっぱり失わずに最後まで頑張ると言うことも1つの目標にしてほしいということを裏のテーマにしております。それで、日頃校長先生を始め各進路の先生とか担任の先生が進路を口酸っぱくなる位生徒さんに言うておりますが、なかなか自分たちもそうだったんですけども高校卒業後の進路と言うのはなかなか重たいテーマなので、その生徒さんにちょっととっかかりを別な角度で演劇で進路を考えてもらおうと言う趣旨で、ちょうど4年目になりますので釧路北ロータリーの皆さんに、ご賛同いただいてご理解いただいてこの演劇を演じると言う事は私ども学校にとっても非常にありがたいこととございますので、それを通じて釧路商業高校の生徒のみなさんがちょっとでもヒントを見つけてもらって地元のために貢献できるような気持ちを持って就職していただけたら嬉しいなと思っておりますので、一生懸命練習してきました。実は昨日も白老東高校さんで演じて来ました。そして昨日の夜釧路に入ってきました。夜もまた若干練習して今日は10時から来て設営をやってリハーサルも今ちょうどやっておりますので、今度本番に備えて皆さんにぜひ一生懸命演じる姿を見ていただいて、私たちの学園も実はこういう形で社会貢献の1つを担っていると言うのも1つのやり方と言うことでご理解頂ければ非常にありがたいと思っております。まずは釧路の地元の企業さんのために、私たちも一生懸命別の角度でこういう事業もやっておりますので今後ともまたご指導ご鞭撻いただきながらご支援いただければと思っておりますので今日は一生懸命演じますのでぜひ楽しんでご覧になっていただければありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

体育館移動後の様子



